

九条みなみそうま

「みなみそうま九条の会」会報

No.426

福島県南相馬市2025(令和7)年10月8日(水)発行

●安倍晋三政権の強行採決で決められた、集団的自衛権の行使容認の**安全保障関連法(戦争法)成立**(2015年9月19日)から**10年**です。憲法違反の法律で、「武力で平和はつukれない」や「憲法9条」の意義をもっとメディアで取り上げてほしいものです。

報告

戦時下のウクライナを訪ねて

～民主主義と自由とは何かを実感～

事務局長 すぎた和人

＜すぎたさん撮影の現地の写真＞

今年4月と9月に二度の訪問

この4月と9月に戦時下にあるウクライナを訪問、今回は約3週間の旅程でした。

2022年2月24日にロシア軍による全面侵攻から始まったロシア・ウクライナ戦争は3年半以上継続し、現在の状況は一般的な日本人が抱く「戦争」とは大きくかけ離れ、鈴木安蔵出身地の小高に暮らす者として、抵抗するウクライナの姿は大いに考えさせられるものがあつたので「九条の会」の皆さんにお伝えしたい。

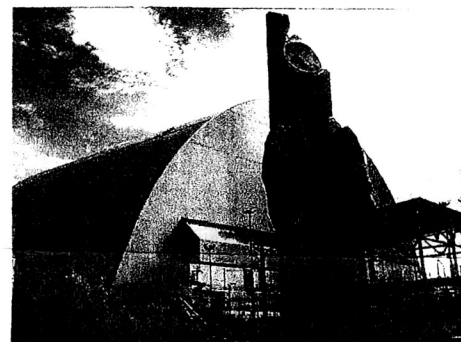
多くの地域で物流は復活し

生活は普通に送られている

現在ウクライナでは、東部や南部などの占領地付近を除き、イスラエルがガザを破壊したような光景は見られず、ロシア軍の地上部隊を押し返した事もあり、多くの地域で物流が復活し、人々の生活は滞りなく送られるようになっている。民間旅客機は飛行していないが、陸路(列車、バス)での移動は問題なく、宿泊や長距離バスの予約もネットででき、ホテルではホット・シャワーも浴びる事ができた。街での暮らしも防空警報が鳴り、ドローンやミサイル、時にミグ戦闘機が飛んで来る以外は、人々は普通に散歩、カフェで自由な時間を楽しんでいた。



ドラゴマノフ大学のV・フェドリシン芸術学部長と、首都キーウ(キエフ)の国立歌(オペラ)劇場にて



チェルノブイリ原発4号炉の石棺。



今年2月のドローン攻撃で破壊されたチェルノブイリ原発4号炉シェルター

ドローン攻撃中でも文化や芸術を語り合う

ウクライナの底力を強く感じる

今回、ジトーミルで開催の国際文化外交フェスティバル「ART FOR PEACE」というフェスティバルに招かれた。私の登壇後に防空警報が鳴り、その後、避難した地下シェルターで継続され、ドローン攻撃の最中でも文化や芸術について語る人々に、ウクライナの底力を見た思いがした。また、キーウ(キエフ)の国立劇場でバレエとオペレッタ(演目はパルチザン物)を観劇する機会を得たが、銃後で暮らす人々も自分達の文化を守ろうと必死で戦っている事が切々と伝わってきた。

(裏ページへ)

(表ページより) **強く感じる民度の高さ**
防衛する側の国と、侵略する国との違い

2回の訪問で強く意識したのは、ウクライナの民度の高さであった。軍事大国ロシアと戦い続けながら＝男性には出国制限をかけているものの＝全体主義に陥る事なく、人々に自由な生活を与えているからだ。かつての日本のように「贅沢は敵だ」と威圧し、一億総玉砕を扇動するような空気はなく、街で見かける兵士も荒れたり偉ぶったりしてはいない。考えてみれば、ウクライナは「守るものがある」防衛する立場で、旧日本軍はロシアと同じく侵略する側で、それだけ国民（当時は臣民）が疑念を持たぬよう自由な思考を制限する必要があった訳だ。ウクライナ軍の反撃も民間施設を狙うような卑劣な事をせず、極めて自制的な戦いをしている。もし敵と戦うために軍国主義と化してしまえば、彼らが2014年にマイダン革命※で掲げた自由のある民主的な国作りとは遠く離れてしまうからである。

**日本人は「国民」や「民主主義」を
 学び直さないといけないのではないか**

帰国後、『ウクライナ企業の死闘』（松原美穂子・産経セレクト）を読んだ。戦時下にあって、いかに企業が社員（非正規も）の安全を考え、国も行政サービスの継続や被災住民への手厚い施策に腐心する様が綴られているが、何度も出て来る「国民」という言葉に愕然とした。果たして、日本はどうか？国民を第一と考えているのか？どうやら、私たち日本人は「戦争」だけでなく、「国民」や「民主主義」について改めて学び直さないといけないようだ。

(2025. 10. 2 記)

※ マイダン革命（尊厳の革命）

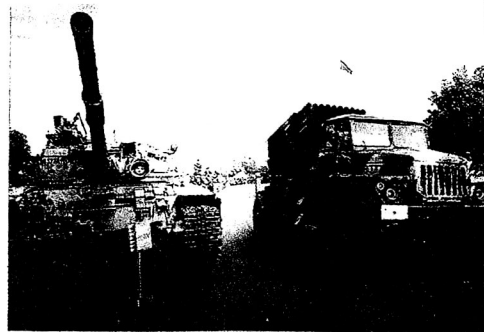
2013年11月から2014年2月にかけて、ウクライナの首都キーウ（キエフ）の「独立広場」を中心に発生した大規模な市民運動で、親ロシア派のヴィクトル・ヤヌコーヴィチ大統領を追放した政変。背後にアメリカがいてNATO寄りとなり、これがロシアを刺激して、2022年のロシア侵攻の要因の一つと言われている。

「マイダン」とはウクライナ語で「広場」の意味。

○すぎた和人さんの「ウクライナ訪問報告会」が10月26日、小高教会で開催。また12月7日（日）午後、南相馬市民情報交流センター大会議室で本会主催の「報告会」があります。

ウクライナーロメモ

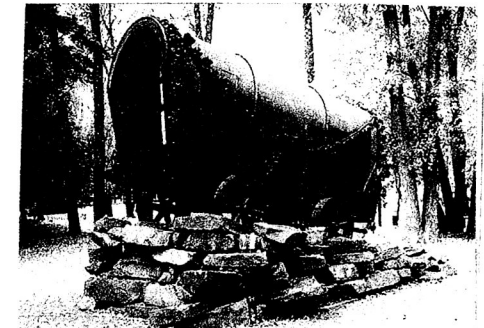
◆面積:60万3628km² (日本37万7960km²) ◆人口:約4千万人 (日本約1億2千万人) ◆首都:キーウ(キエフ) ◆平地が多く、大陸性気候 ◆大農産国で大工業国 ◆1991年ソ連加盟から独立 ◆ウクライナ人(ロシア人20%) ◆隣接国:北:ベラルーシ、東:ロシア、西:ポーランド、南西:スロバキア・ハンガリー・ルーマニア・モルドバ、南:黒海・アゾフ海



捕獲されたロシア軍の戦車（榴弾砲車両）。



スターリンによるホロドモール（人工飢餓政策）の少女像。



ナチス虐殺の地バビ・ヤール、ロマ（ジプシー）の記念碑。

○すぎた和人さん 今年6月から「みなみそうま九条の会」事務局長。東京生まれ。写真家・画家・ルポライター。原発事故後、詩人若松丈太郎さんに小高を案内されて小高の風土に感動。小高に移住し、小高を全国に紹介しています。

ウクライナ国旗
 澄んだ空の青色
 春のあけぼのの黄色